# 下屋敷庭園跡

江戸時代後期の田中城絵図によると、下屋敷には築山や泉水、茶屋や稲荷社がありました。築山は四季を通じて景色よく、泉水には多くのカキツバタが生えていたといわれます。しかし、明治・大正・昭和と時代が移るにつれて下屋敷の姿も変わりました。南側にあった築山は平らにされ、泉水も埋められて畑となりました。さらに、六間川の改修によって下屋敷跡は昔の半分程の広さになりました。



# 亀石

江戸時代後期、下屋敷には鶴石と亀石が置かれていたと伝えられています。 鶴石の所在は不明ですが、昭和42年六間川水路修工事の際に大小2つの亀石が発見されました。大きいほうの亀石はかつて下屋敷庭園内・中ノ島の西側岸辺に土留め(護岸)の大石として泉水に浸かって置かれていたようです。





## 整備の概要

明治維新後、田中城は廃城となり、城跡と建物は民間に払い下げられました。昭和32年に田中城跡は市の指定史跡となりましたが、その後宅地化が急速に進んだため、昭和60年に「田中城保存整備基本構想」が策定され、昭和62年から田中城跡の保存整備事業が始まりました。

下屋敷跡については、平成2年に発掘調査が行われ、平成4年から7年にかけて用地買収や庭園の復元整備、関連建物の移築復元、駐車場の造成などを行いました。平成8年8月1日に史跡田中城下屋敷としてオープンしました。

〔面積:史跡田中城下屋敷4,552㎡·駐車場1,542㎡〕

開場時間 午前9時~午後5時

休場日 月曜日

入

場

ご

案

内

祝休日の翌日 年末年始(12/28~1/4)

臨時休業日

入場料 無料

お 。建物や植物等を傷めないで下さい。 貊 。場内での火気使用はできません。

は
 は
 は
 に
 は
 に
 は
 に
 は
 に
 は
 に
 は
 に
 は
 に
 は
 に
 は
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に
 に

- ・募金や物品の販売はできません。 ・夜間および休場日は、機械警備を行って
- 。 役向のよび怀場口は、仮慨言順を行って おりますので、絶対に入らないで下さい 。 自転車・自動車等は南側の専用駐車場を
- 。ゴミは各自で持ち帰りましょう。

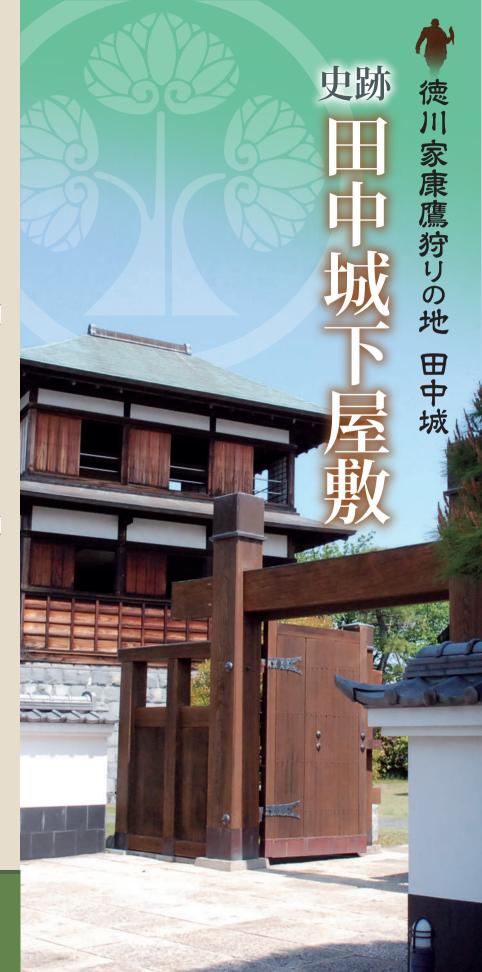


交通 ○JR西焼津駅よりバス(五十海·大住線)「六間川」バス停下車 徒歩4分 案内 ○自動車は県道381号島田岡部線大手交差点を南東へ1.2㎞ 駐車場あ

# 史跡田中城下屋敷

〒426-0012 静岡県藤枝市田中3丁目14番1号 TEL 054-644-3345

藤枝市郷土博物館·文学館 TEL 054-645-1100

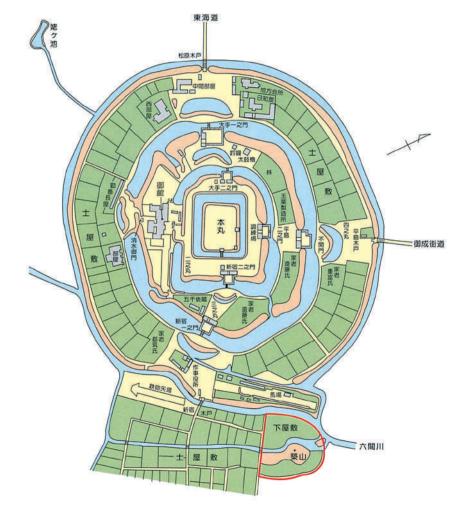


# 史跡田中城下屋敷

田中城は、今から500年ほど前、この地の豪族・一色氏が今川氏の命を受けて、その 屋敷を拡大して城としたのがその始まりだといわれています。その後、武田氏の手に落 ち、さらに江戸時代になってから四ノ堀が増設されて、直径およそ600mの全国的にも 珍しい同心円形をした城ができあがりました。現在、市立西益津小学校が建っている場 所がかつての本丸で、江戸時代には4万石程度の譜代大名が城主となって、志太平野の 村々を治めていました。しかし、明治維新によって、田中城は廃城となり、城跡も民間に 払い下げられました。

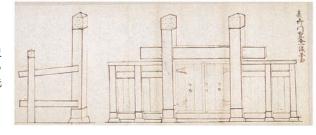
田中城の南東隅にあたるこの下屋敷跡は、一色氏やその後裔の古沢氏の屋敷跡だと も伝えられています。しかし、江戸時代後期には城主の下屋敷(別荘)が置かれ、築山・ 泉水・茶屋等を設けて四季の景色を楽しんだともいわれています。

平成4年度から8年度にかけて、下屋敷跡の庭園を復元するとともに、田中城にゆかり のある当時の建物をここに移築・復元しました。城にあった建物の実物が現在まで残 されることは珍しく、歴史的価値の高い貴重な文化財といえます。



## 冠木門

入り口の門は、 二十分の一の縮尺 で描かれた当時の 図面をもとに復元 したものです。



### た なか じょう ほん まる やぐら 田中城本丸櫓

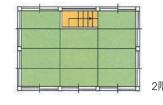
Turret of Tanaka Castle

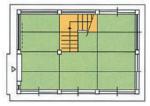
- ⊗市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ≪構 造─木造・2階建銅板葺
- 参規 模─桁行3間・梁間2間(京間・46.57㎡)
- 参寄贈者─藤枝市本町2丁目8番43号 村山晴美

この櫓は、もと田中城の本丸にあり、高さ9尺 (約2.7m)の石垣の上に建っていたといわれま す。本丸の南東隅の石垣上に「御亭」と呼ばれ る2階建の建物のあったことが記録にみえ、こ れに該当するもののようです。

明治維新によって、田中城には 高橋伊勢守政晃(泥舟)が入りま した。村山氏はその配下にあり、 しかも泥舟の4男を養子とした関 係で、明治3年この櫓の払い下げ を受け、移築して住居としました。 月楼」と名付け扁額を掲げていま す。屋根はもと杮葺であったよう です。

田中城内より移築した建造物 のなかで、昔から最もよく知られ ている建物です。





平面図



## 茶室

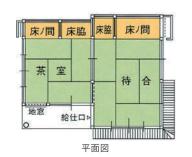
Tea ceremony house

- 令市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ◈構 造一木造平屋瓦葺
- 参規 模─23.1㎡
- 参寄贈者─藤枝市藤枝4丁目1番15号 奥野まき



この茶室は、明治38年頃、辛歳の村 松家にあったものを上伝馬の奥野氏が 譲り受け、屋敷内に移築・改造したとい われています。もとは田中藩家老の茶室 であったと伝えられていますが、下屋敷 の庭内にあった「茶室」とみられます。

建物はきゃしゃな造りの数寄屋建築 で、西側の四畳半の間が茶室、東側に は給仕口のついた六畳の待合が接続し ています。



#### ちゅう げん ベ や うまや

Footman's house with a stable

◈市指定有形文化財

(平成5年4月26日指定)

◈構 造—木造平屋瓦葺

參規 模─間口4間5尺・奥行2間7尺  $(40.52 \text{ m}^3)$ 

参寄贈者─藤枝市大洲2丁目20番11号 大塚清質



平面図



郷蔵とは、年貢米や飢饉に備えた非常

(救済貸付)米を保存するための蔵で、江

戸時代には村ごとに置かれていました。

村役人が管理しており、夜間は畳敷の小 部屋に2人1組で泊まりこみ、夜番をしま

長楽寺村の郷蔵は、明治10年頃に中

西家に払い下げられました。この時、郷蔵

の半分を切りとり移築したものといわれ、

本来は現状の倍の大きさであったとみら

した。

れます。

大洲村の大塚家にある長屋門は田中 城内より移されたといわれてきましたが、 調査の結果、長屋門に付設された納屋が それだと分かりました。

仲間部屋と厩とを1棟に仕立てた建物 で、手前右側の鬼瓦には、城主・本多家 の家紋(立葵紋)が刻まれていました。 また、解体にあたって、「安政六年」 (1859年)と書かれた板材が見出されて おり、建築年代もその頃と推定されます。



築材に墨書された年号(仲間部屋・厩)

ちょう らく じ むら ごう ぐら 長楽寺村郷蔵

Granary of Chorakuji Village

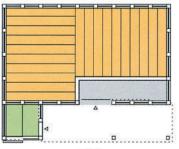
◈市指定有形文化財

(平成5年4月26日指定)

≪構 造—木造真壁造•平屋瓦甍 參規 模─間口4間3尺・奥行3間4尺

 $(42.96 \text{m}^2)$ 

参寄贈者─藤枝市本町1丁目14番4号 中西真太郎



平面図

長楽寺村郷蔵は、市内に現存する唯一の郷蔵であり、貴重な建築物です。 また、建替した時の年月と村役人(庄屋)の名が柱に書き付けられています。 「天保十四卯歳九月建替 長楽寺村 庄屋恵助 (1843年)

同断 八郎右衛門|